

# NEWSLETTER

学期末を迎え、皆様方にはお忙しい中にも、今年度の教育目標に迫るべく充実した教育実践に取り組んでおられることと思います。今回は研究課が担当する研究のうち『小学校学習評価に関する研究』『中学校学習評価に関する研究』『新教育課程に関する研究』の中間報告と教育研究発表会、教育研究公開シンポジウムの案内をさせていただきます。  
(研究課)

## 小学校における授業の工夫改善につながる学習評価の在り方 中村 隆

指導の目標と評価の目標は表裏一体であり、評価はその後の指導に生かされることが重要です。このことをふまえながら、本研究では、「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」、「個人内評価」が重視される背景を明らかにするとともに、学校指導課と連携し、「指導と評価の一体化」をめざした学習を設計するプロセスを検討しています。そして、国語科・算数科のそれぞれ各1単元分を取り上げ、観点別学習状況の評価における評価の時期や、1時間毎における評価規準や判定基準、評価方法な

どを具体的に示す学習モデル例を提示します。

また、児童・保護者・教師が共に学習を振り返るための総括的評価の一翼を担う通知票について、全国の動向をふまえながらその在り方についても考察していきます。

## 中学校における指導との一体化をめざす学習評価の在り方 佐々井 良一

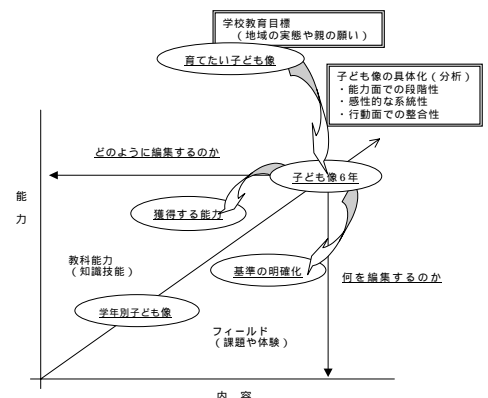
平成14年度から始まる新学習指導要領をふまえ各教科の指導計画の作成が進められ、新教育課程教科別研修会も始まりました。こうした中、本研究では学校指導課と連携し、「基礎的・基本的な内容の確実な定着」「自ら学び自ら考える力」などの生きる力をはぐくむために、「指導と評価の一体化」をめざした授業を進めていくにはどのような準備をしておけばよいかについて研究を進めています。全国の研究指定校等に依頼して実施した学習評価についてのアンケートを参考にし、学習評価の方法や

「指導と評価の一体化」をめざした技術・家庭科、国語科、数学科、英語科の授業設計モデルの提示をしていきます。

また、新学習指導要領における通知票の在り方について、全国の研究指定校等から送っていただいた通知票を参考に提案していきます。

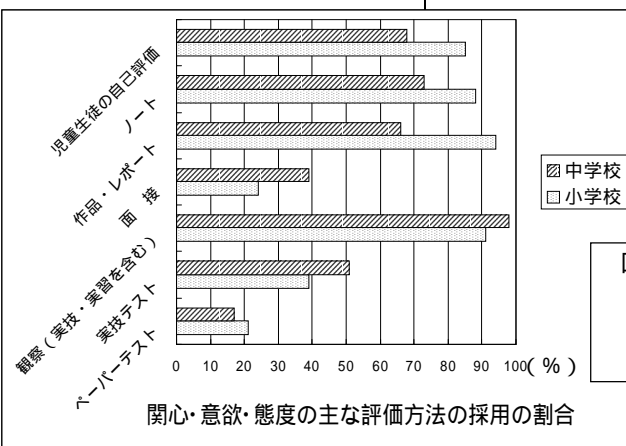
## 「特色ある学校づくり」を支援するカリキュラムセンター機能の開発に向けて 堀 康廣

カリキュラムを編成する際の留意点



この研究では、各校が自校の実態に即したカリキュラムを独自に作成し、子ども達の個性や能力を育み、地域の特色を生かした教育を展開する際の教育センターのサポート機能の在り方を考えています。そのための具体例として、「総合的な学習の時間」がどのように編成され、実施されるか、そのカリキュラムの編成の在り方や方法等を研究協力員の先生方と共に開発検討しています。

・「総合的な学習の時間」と教科



回答校数  
小学校 33校  
中学校 41校  
(複数回答)



学習との知識や技能の関連の  
させ方  
・体験の場で技能等を再構成さ  
せるための転移の方法  
・「総合的な学習の時間」のカリ  
キュラムの系統や教科との整

合性  
等についての手がかりを明らか  
にできるのではないかと考えて  
います。  
そして、ここで得た情報を基  
に「センター機能の今後の在り

方」やカリキュラムを各校が作  
成する際の「編集方法の在り方」、  
そのための「教育実践フィール  
ド」の視点をまとめることがで  
きるように努力しています。

## 永松記念教育センター 平成 13 年度教育研究発表会

平成 14 年 2 月 2 日 (土)  
午後 1 時 30 分より  
永松記念教育センター第 1・2 研修室

本年度、研究課では、関係各課と連携し、教育課程・各教科・総合的な学習の時間・心の教育・人権教育など 10 のテーマで教育研究に取り組んでいます。昨年に引き続き、それぞれの研究協力校や研究協力員の先生方とともに進めてきた研究の成果を広く発表する場を持つことにいたしました。参加いただいた皆さんには、全ての研究で開発した学習プログラムや指導案を配布する予定です。詳細については、各校にお配りしました案内状をご覧ください。

## 第 21 回教育研究公開シンポジウム これからの評価

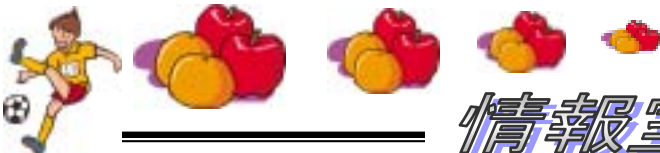
目標に準拠した評価で学校はどう変わるか  
平成 14 年 3 月 1 日 (金)  
午後 1 時 30 分より

永松記念教育センター大研修室 他

主催：国立教育政策研究所

京都市教育委員会・京都市立永松記念教育センター

いよいよ新教育課程に基づく新しい教育活動が始まります。こうした中、国立教育政策研究所と共催し、全国的規模で標記シンポジウムを開催することになりました。「新しい評価のあり方」をめぐって、梶田叡一氏の基調講演に引き続き山極隆氏、国立教育政策研究所教育課程調査官等によるシンポジウムが行われます。既に各校から多数の参加申し込みが届いておりますが、申込締め切りが 12 月 14 日と近づいております。参加ご希望の方はお急ぎください。



## 情報室だより

情報資料室では、全国各地から送られてきた教育研究冊子が閲覧できます。下表のものはその一部ですが、今日的な課題に対応した特集も生まれ、各学校の教育実践に参考になるものと思われま。ご来館の節には、是非お立ち寄りください。

### 全国各地の教育研究冊子

教育研究冊子(報告書)	発行
「兵庫教育」No. 608 2001・10 特集 「感動 新発見! - 子どもの心をはぐくむ体験活動 - 」	兵庫県教育委員会
「不登校児童生徒に関するマルチメディアを活用した補充指導についての調査研究」	国立教育政策研究所 生徒指導研究センター
「学級崩壊に対応した教員養成カリキュラム開発のための基礎的研究」 2001年3月	兵庫教育大学
先生のためのガイドブック 「みんなが生き生き総合的な学習インターネットでひと工夫」	日本教育工学振興会

### 新着ビデオ紹介

235	小・養	教育課題特別講座(4) 主催:京都市教育委員会 講演「授業改善による基礎的・基本的な内容の定着と評価」 兵庫教育大学講師 佐藤 真	100分
572	中・養	教育課題特別講座(4) 主催:京都市教育委員会 「生徒の自己評価」 名古屋大学大学院 教授 安彦忠彦	92分

貸出し期間は10日間です。視聴が終わりましたら速やかにご返送ください。